

## 『 南の国サモア 』

学校名・名前・担当教科： 明石市立野々池中学校・小倉 寛樹（保健体育）  
 実践教科： 総合的な学習の時間  
 指導時数： 3時間  
 対象学年： 中学1年生 対象人数： 213人

## ＜教師海外研修を通して感じたこと＞

サモアに出発する前に一番不安だったのは、現地での授業実践であった。授業対象学年や場所など、不確定な要素が多く、なかなか授業のイメージがでできなかった。しかし、実際にサモアの子どもたちに会い、体育の授業をしてみると本当に笑顔いっぱい、とても楽しそうに授業に参加してくれ感激した。帰国後に写真を見ても、本当に素敵な笑顔で、その笑顔を見ていだけで自分自身も元気になることができた。

日々の中学校生活の中で、これほど満面の笑みを見る機会は、そう多くないと感じたが、本当は、日本の授業の中でも、サモアの子どもたちと同じような笑顔を見ることできなければならぬと感じた。開発教育に取り組むことはとても大切なことで、これから、様々な場面でサモアでの経験をふまえた話をしたいと思っている。同時に、教師としてステップアップすることが、生徒の理解を深めるためには、大切だと感じた。

## 教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

## BEFORE

- ・日本に比べ、経済的に遅れており、人々の暮らしも、貧しいと思っていた。
- ・スポーツなどあまりしたことがなく、体育の授業などには、積極的に参加しないのではないかと感じていた。
- ・開発教育・国際協力などは、限られた人たちの話で、普段の自分自身の生活には直結しない事だと感じていた。

## AFTER

- ・サモアは経済的には、日本ほど豊かではないが、そこに暮らす人々は明るく、独自の社会システムの中で協力し合いながら生活しており、人とのつながりの深さを感じた。
- ・サモアの生徒は、本当に素敵な笑顔で授業に取り組んでくれ、体育の授業の楽しさを自分自身も再認識した。
- ・生徒だけでなく、保護者や他の教師にもサモアのことや JICA の事業を知ってもらいたいと思い、機会があれば PR 活動を行うようになった。

## 授業の詳細

### 1. カリキュラム

#### (1) 実践の目的/背景

野々池中学校では、総合的な学習の時間として、週1時間がカリキュラムに組まれている。今回のサモアに関する授業は、行事の合間の総合的な学習の時間を利用して実施することになった。対象の生徒は、1年生6クラス全員で、合計の生徒数は213名である。授業構成を簡単に説明すると、1時間目は、クラスごとに教室で、サモアについての基礎知識について学ぶ、サモアの文化を理解するという内容である。2時間目は、学年集会の形をとり、学年全員を武道場に集め、クラス対抗のサモアクイズなどをおこない、その後、JICAに関する基礎知識と現地で出会った青年海外協力隊からのビデオメッセージを流すという内容で実施した。3時間目は、3学期の2月に実施する予定であるが、キャリア教育の一環として実施する職業学習の中で、JICAの職員もしくは青年海外協力隊の経験者の話を聞く授業を予定している。

#### (生徒観)

野々池中学校37期生の1年生の生徒は、明るく元気で、授業においても積極的に発言することができるところがとても良いところである。まだまだ、幼いところもあり、うまく人間関係を作ることが難しいこともあるが、行事などでは、クラスや学年一丸となって協力し、盛り上がるることができる。サモアに行く前に、生徒に「サモアという国を知っている人」と聞いても誰も知っている生徒はいなかった。また、JICAについても、誰も知らなかった。このように、まだまだ、国際理解についての知識のない生徒であるが、興味のあることがらに対しては、積極的に学ぶ姿勢を持っている。

#### (教材観)

教師海外研修に参加し、自分自身が日本の国際支援の現状や、開発途上国の問題点などを知ることができた。生徒にとって、サモアという国はほとんど知らない国である。身近な教師が、そのような遠い国に行くというだけで興味深く感じるものであり、そこでどんなことがあったかを知りたいという気持ちになる。まだまだ、中学1年生なので、外国に興味のある生徒も少ない中で、広く海外に関心を持つきっかけにするには、適した教材である。

#### (指導観)

今回の授業では、まず、サモアという国を知りそこでの暮らしや文化を理解させたい。そのうえで、青年海外協力隊のメッセージを聞き、海外で活躍する日本人を身近に感じ、国際協力に興味関心を持たせたい。また、写真や動画など視聴覚教材を用いて、生徒にとって遠い国サモアについての理解を深めさせたい。そして、日本から遠く離れた島国で、生活する同じ中学生の様子やたくましさを感じさせ、自分自身や今の日本について考えさせたい。教師自身も感動した海外で頑張る日本の若者の姿や話を聞き、自分にできる国際協力について考え、将来の自分の生き方について考えるきっかけにさせたい。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1時限目</b> サモアに関する基礎知識を学ぶ	①日本とサモアの位置関係や地球全体から見た日本など、グーグルアースを使いながら確認する。 ②サモアの基礎データについて質問し、明石市や日本と比較しながら、その違いを知る。 ③サモアの伝統料理であるウム料理について質問し、日本との調理方法や食材の違いについて知る。 ④フォトランゲージを行う。グループで考え発表する。	・パソコン、プロジェクター ・パワーポイント教材 ・グーグルアース ・インターネット接続環境 ・生徒用プリント ・フォトランゲージ用写真 ・サモアの普段着(ラバラバ)
<b>2時限目</b> サモアの文化を学ぶ  サモアで活躍する日本人について知る	①各クラス抽選で、考えるモノを選ぶ。担任も入ってそのモノが、何かを考え、時間がきたら、クラス代表が発表する。 ②サモア OXクイズを全員で行う。正解者が、2～3名になるまで、続ける。 ③教師が海外研修で、感じたことを話す。サモアで働く、青年海外協力隊から受けた印象など生徒に話し、最後に協力隊からのメッセージや活動の様子を見せる。	・パソコン、プロジェクター ・パワーポイント教材 ・青年海外協力隊からのビデオメッセージ ・サモアの物(各クラス分) ・サモアのおみやげ ・サモアクイズ ・生徒用感想用紙 ・サモアの普段着(ラバラバ)
<b>3時限目</b> 日本の国際協力について学ぶ	①実際に国際協力の場で働く人の話を聞き、理解を深める。 ②2年生で実施される、トライやる・ウィークに向けての職業学習の一環とする。	・派遣講師 ・生徒用プリント

2. 授業の詳細

**1時限目** 「サモアに関する基礎知識を学ぶ」

■目標

- ① 世界の中の日本を考え、日本以外にも様々な国があることを知り、関心を持つ。
- ② サモア独立国の基本的な内容について理解する。
- ③ 写真や動画を見て、異国の文化や習慣を理解し、日本との違いについて考える。

## ■内容

- ① 日本とサモアの位置関係や地球全体から見た日本などグーグルアースを使いながら確認する。
- ・野々池中学校から、サモアまでの実際の経路をグーグルアースでたどり、日本から遠い国であることを実感させる。



- ② サモアの基礎データについて質問し、明石市や日本と比較しながら、その違いを知る。

- ・人口、面積、宗教、日本からの距離などについて、日本や明石市など身近なものと比較しながら学ぶ。

(例えば、明石市の人口は、約29万人に対して、サモアは、約18万人であることを知り、興味を高める。)

グーグルアースから始まった1時間目



ウム料理には驚きいっぱい

- ③ サモアの伝統料理であるウム料理について質問し、日本との調理方法や食材の違いについて知る。

- ・ブレッドフルーツやウム料理の写真を見せ、これが何であるかを考えるところから始める。
- ・実際に豚などの食材が並べられた写真を見せ、日本との文化の違いと、日々の食事は命を頂いていることであることを実感させる。



何の写真か相談中

- ④ フォトランゲージを行う。生徒を6班に分け、そのすべての班に同じ写真を配布し、写真から読み取れる内容を考え、発表する。

- ・サモアの教室の後ろに座っていた子どもの写真を見せる。
- ・班ごとに協力して、考えを発表する。
- ・すべての班の発表後、授業中に子どもが教室の後ろでパンを食べている写真を見せる。

サモアの学校では、生徒以外に先生の子どもや近所の子どもなどが教室に出入りし、日本では考えられない学校生活があることを知る。



授業中にパンを食べる子どもの写真

- ⑤ サモアの中学生在がヤシの木に登り、ココナッツの実を取っている動画を見せる。



<ココがポイント>

生徒が授業への興味を持つように、教師は、現地で購入したラバラバという衣装で授業に臨んだ。地球の大きさを実感させ、同じ地球にある国なのに、今まで自分が想像もしないような国があることを知る。自分たちが住む明石市のデータとサモアのデータを比較することで、遠い国を身近に感じさせることができた。また、本校では、どの教科においてもグループ討議を授業の中に取り入れている。フォトランゲージでは、写真から読み取る作業を班で協力して行う態度を養うことも目的として実施した。

## ◎生徒の反応

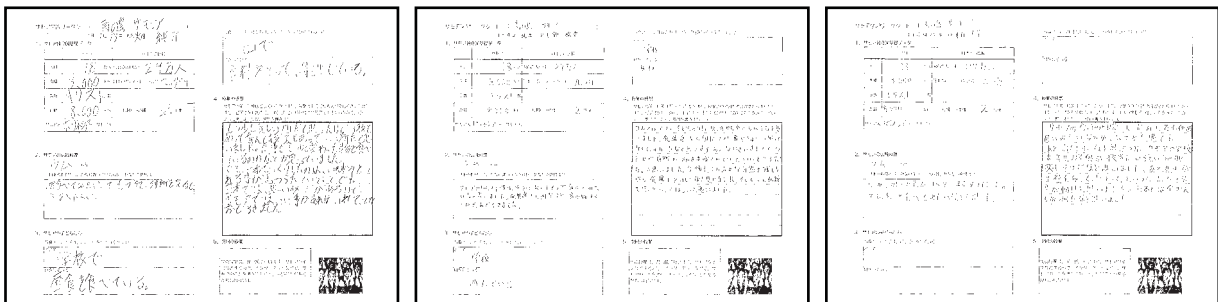
まず、教師が着ている衣装に興味津々であった。テレビなど準備している段階から、「先生なんでスカート履いてるん？」と多くの生徒が近寄ってきた。

また、授業の中で教師から話した、「サモアの学校では、遅刻をしたり、悪いことをすると罰として、農作業や教師の昼食を作る」という話が、とても印象に残ったようである。最後に見せた、サモアの生徒がココナツの木に登り、ココナツの実を取る動画は、生徒には衝撃的であったようで、まさに、文化の違いを実感できたと感じた。

## ◎生徒の感想

- ・思っていたよりサバイバル的な感じもなく、自然が豊かでのびのびした生活が送れそうな国だと思った。
- ・最初、先生の服装を見たときは、「ありえへん」と思ったけど、サモアにはサモアらしい服でピッタリだなと思った。
- ・もう少し貧しい国だと思ったけど、思ったより食糧もあって充実しているような感じだった。
- ・ご飯はおいしそうやけど、豚とか目の前で殺するのは残酷やなと思った。でも、食事のありがたさとか、すごくわかるんだろうなと思った。
- ・あんな高いところに、するすると登ってすごかった。
- ・第一印象は、楽しそうだった。理由は、写真に写っている人は、みんな笑顔だったから。

## 生徒の感想ワークシート



## 2時限目 「サモアのモノから文化を学ぶ サモアで活躍する日本人からのメッセージ」

## ■目標

- ① サモアから持ち帰った日用品や民芸品に触れ、サモアの文化を体感する。
- ② サモアに関するクイズを学年で行い、楽しみながらサモアへの理解を深める。
- ③ 教師が出会ったサモアで活躍する日本人の話を聞き、国際協力に対する理解を深める。

## ■内容

- ① サモアから持ち帰ったモノを各クラスに渡し、クラスで協力してそれが何なのか、何に使われる物なのかを考え発表する。
- ・評議員が中心となってクラスをまとめるように指導した。話し合いがスムーズに進むように、教師からの助言を行った。
  - ・用意したモノは、
    - ①カバ儀式用の器
    - ②カバを飲むためのコップ
    - ③ムチ
    - ④ヤシの繊維で作ったタワシ
    - ⑤皮むき用の缶
    - ⑥バイオごみ袋
 の6点である。
  - ・クラスでまとめた意見を発表し、正解した2つのクラスにお土産のキーホルダーを賞品として用意した。



評議員による抽選の様子



クラスで相談する様子

- ② サモアの〇×クイズを全員で行う。武道館をロープで右と左に仕切り、正解だと思う方に移動する。正解者が、2～3名になるまで続ける。
- ・〇×クイズ用に考えた質問は、「サモアの人口は明石市より多い？〇か×か？」など、1時間目に学習した内容を盛り込み、ただのクイズ大会に終わらないように配慮した。
  - ・最後まで残った2名に、賞品としてサモアのコインを用意した。



〇×クイズは個人戦

- ③ 教師が海外研修で感じたことを話す。サモアで出会った青年海外協力隊の方から受けた印象など生徒に話し、最後に協力隊員からの、生徒へのメッセージビデオで見せる。
- ・クイズで盛り上がった雰囲気を切り替え、落ち着いた雰囲気を作る。クラスの評議員が号令かけ、クラスを入場した隊形に整列させる。
  - ・教師から、JICAでの国際協力事業について説明した。その後、サモアで活躍する青年海外協力隊員からの、メッセージビデオを見ることによって、海外で頑張っている日本人がいることを実感することができた。



メッセージを真剣に聞く姿



### <ココがポイント>

学年集会形式での授業なので、規律正しく行うことができる環境が大切である。クラスのリーダーたちも、楽しみながらクラスをまとめて討議することができた。最も生徒に共感して欲しいと思っていた「協力隊からのメッセージビデオ」を真剣に受け止めてくれたことが成果であった。

## ◎生徒の反応

クラス対抗のモノランゲージやサモア〇×クイズは、非常に積極的に参加していた。また、JICA に関する教師からの話や協力隊員からのメッセージビデオもしっかり顔をあげて聞く姿が見られた。あっという間の1時間であったが、生徒の心に深く残ったと感じることができた。

## ◎生徒の感想

- ・働いている人、サモアの子どもたち、みんなが生き生きした表情をしていて、とても優しそうでした。私もあんな場所で働いてみたいと思いました。
- ・子どもたちがムチで叩かれるのは、かわいそうだった。
- ・JICA というのは、あまりなじみのある言葉ではなかったけど、今回の授業で JICA のことが分かりました。
- ・日本で使われなくなったフェリーを使っていたけど、新しいのが欲しくないのかなと思いました。
- ・サモアの人たちは、自然を大切にしていると思いました。
- ・私は外国に行ったことがないので、一回でも行って、他の国のことを知りたいと思いました。
- ・サモアで働いている日本人を見て、すごく頑張っているなと感じました。私もそんな人になりたいと思いました。

## 3 時限目 「日本の国際協力について学ぶ」

3 学期の 2 月に講師を招き実施予定

## 3. 成果と課題

サモアではたくさんの出会いがあった。サモアの文化に触れたり、その国でしか見たり、感じたりできない事もたくさんあった。その中でも、今回の海外研修で一番の自分の財産になったのは、やはり人との出会いであった。1 日目の Sagaga で聞いた子どもたちの歌は、一生忘れることができない体験である。身体を前後にゆすりリズムをとりながら歌う、その素晴らしい歌声に心から感動した。そして、サモアで頑張っている日本人にも数多く出会うことができた。言葉ではうまく表現できないが、「生きているな」と感じた。サモアに行く前にはあまり考えていなかった、「現地で頑張る日本人のことを生徒に伝えたい」と考えるようになった。とにかく多くの出会いの中で、自分自身を見つめなおし、日本にいる生徒たちに伝えたいことが、たくさんできた素晴らしい研修であった。

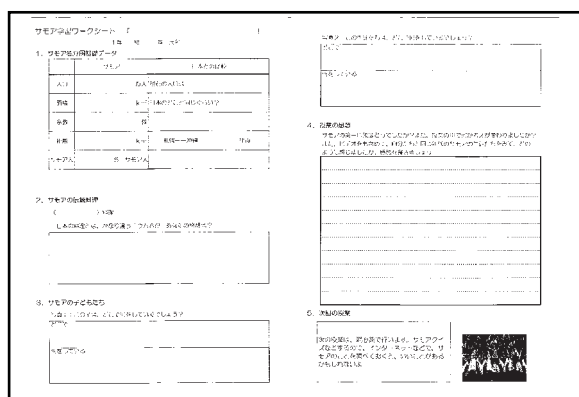
帰国後、本校の生徒に伝えたいことの多さと、その時間がないことに、葛藤する日々であった。その中で、これだけは知って欲しいと願うことを選び、授業を組み立て実践した。生徒にもその思いは伝わったと思っている。また、生徒だけでなく、本校の教師にも簡単な開発教育の手法やサモアでの様子を紹介する講習会を実施した。保護者にも少しでも今回の研修のことを伝えたいと思い、参観日や懇談会の日に掲示物を作成し廊下に掲示した。

今回、授業をする中であらためて大切だと感じたことは、教師と生徒との間により良い人間関

係が存在するかということである。いくら伝えたいことが教師にあっても、「この先生の話聞きたい」と生徒が思う教師でなければ、生徒にその思いを伝え切ることにはできないと思った。その教師としての土台があってこそ、講習会で教えて頂いた様々な授業手法も生きてくると思う。今回、1年生に対して3時間という短い時間でしかサモアの授業を実施することができなかった。したがって、今後も伝えきれなかったと感じているものを、2年生や3年生となる中で、授業を実施していきたいと考えている。そして、これからの授業をもっと有意義なものにするためにも、自分自身の教師としての成長が必要だと感じた。

参考資料

- ・参考文献
  - 『新編中学校社会科地図』（帝国書院）
  - 『地球の歩き方 フィジー トンガ サモア』（ダイヤモンド社）
- ・参考ホームページ URL
  - 外務省 サモア独立国  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/samoa/>
  - 明石市ホームページ  
<http://www.city.akashi.hyogo.jp/>
  - 国際機関 太平洋諸島センター  
<http://blog.pic.or.jp/>



1 時間目のワークシート



サモアの授業の様子を学年通信でPR



参観日に実施した掲示物



教師向け開発教育講座の様子



教師向け開発教育講座の様子